

～ ヴァナッカム ～
வணக்கம்

スリランカ通信 No.7

平成29年度青年海外協力隊

和田さとみ

環境教育

Satomi Wada
சதோமி வடா

வணக்கம் (タミル語: ヴァナッカム=こんにちは) **எப்படி சுகம்?** (エッパディ スガム?=元気ですか) 日本は梅雨を迎える時期ですね。私の任地バットикаロアはサバナ気候で、今は本来なら乾季(雨が降らない季節)なのですが、異常気象の関係で時々雨が降ります。環境教育に携わるボランティア活動を通じて、環境に対する意識の芽が、私自身の中でもどんどん育ってきています。自分の気づきや学びを、目の前にいる御縁あるスリランカの人や子どもたちにどう伝えていこうか、ゆったり流れるスリランカの時間の中で、日々考え続けています。そんな時間も愛おしく、大切に、今しかない「今」をスリランカで生きています。



↑ Navalady Kanishta Vid. の児童生徒と

学校編：環境教育プログラム その後

5月に入り、バットикаロア市役所管轄区にある39校の小中高校の巡回が一通り終了し、現在は継続的な環境教育授業の実施要請があった学校を二巡目している所です。一回目の授業後に再度学校を訪れると、ペットボトルを使ってフラワーポットを作るといったリサイクル活動に取組む学校が見られました。(右参照)「さとみ先生が来てから、子どもたちが考えて作ったのよ」と言ってくれる校長先生がいて、とても嬉しかったです。そういった学校を今後、校長会議で紹介しようと考えています。またバットикаロア市役所管轄外の学校からも要請があるので、追々訪問する予定です。



↑ 授業後、リサイクルに取組む学校が出てきた

継続講座、第二回の授業は有機ゴミについて。適切に処理すれば、学校でもコンポストができる(ゴミを堆肥化できる)という話をしています。児童生徒に、実際に土やゴミに触れてもらい、どうすると土の中にいる微生物が生ゴミを分解してくれるかを絵やスライドを使って説明します。一校でも「学校でコンポストをしてみたい」という学校が現れてくれることを願い、毎日学校巡回を続けています。



↑ 微生物はどんなゴミが好き？嫌い？



↑ 私立病院での環境教育啓発プログラム

病院編：環境啓発プログラム

最近では、市役所の上司から「明日、病院で環境啓発プログラムをしてほしい」という突然の依頼が来るようになってきました。右はそのワークショップの様子です。最終処分場では、医療廃棄物が適切に処理されないことが原因で、労働者さんたちが重大な病を負ってしまう事例があります。最終処分場で何が起きているか、環境だけでなく、様々なゴミが人体に及ぼす影響について考えてもらいました。市役所の副助長も同席し、副助長からは医療ゴミの分別方法について詳しい紹介がありました。一人でも多くのバットикаロアの人々が、環境問題に気付いてもらえるように自分にできることを一つずつやっっていこうと考えています。



↑ 環境問題について意見交換する看護師さん

最終処分場の緑地化計画 その後



順調に育っている野菜(処分場の有機堆肥のみ使用 オーガニック野菜)

今年2月からスタートした緑地化計画はスリランカの灼熱の太陽とスコールのお陰で、順調に進んでいます。最終処分場の野菜は、すくすくと育ち、ゴーヤやトマト、インゲンなどが現在たくさん育っています。私は月に一度のペースで処分地の視察に行き、経過観察しています。つい先週、市役所の助長(上司)に経過報告書を提出したところです。いつかここで育った野菜がパッティカロアの公共市場で販売され、また、この地を子どもたちが環境教育の一環で訪れることを、市役所の同僚と夢見て、活動をしています。

学校巡回先の一つに、廃棄物を効果的に活用し、リユース・リサイクルガーデンを積極的に展開している学校があり、そこを最終処分場の課長と緑地化計画のグループリーダーと訪問しました。学校の取組みを見本にして、最終処分場をマイナスのイメージからプラスのイメージに転換

していくための提案を引き続きしていきます。



労働者さんの努力の賜物!



立派なゴーヤ



↑ペットボトルの鉢植え



↑廃棄タイヤの鉢植え



←遊具(ブランコ)の廃材と
ペットボトルで作った鉢植え。
写真は処分場の課長さん

スリランカの豆知識：紅茶の文化

スリランカの旧称はセイロン。セイロンといえば、紅茶のセイロンティを思い浮かべる人は少なくないと思います。スリランカは世界3位の紅茶の生産地です。先日セイロンティの産地、スリランカ中央高地にある「ヌワラエリア」に行き、茶摘みや「ハイティー」を体験してきました。「ハイティー」? どちらかというと「アフタヌーンティー」という習慣の方が聞き馴染みがあるかもしれません。いずれにせよ、「紅茶を楽しむ」という、日本人からすると、とっても優雅な習慣です。イギリスの植民地時代の名残がスリランカの現在の文化となって根付いています。

	アフタヌーンティー	ハイティー
時間	午後4時ごろから	午後6時ごろから
起源	イギリスの貴族(ビクトリア朝時代)	スコットランドの労働者階級の習慣
目的	間食として	夕食として
食べ物	サンドイッチやスコーン、ケーキ	お肉系のおかず、左記の軽食と共に



↑ 私の任地からは、バスでは10時間



セイロン茶摘み体験



「ハイティー」の体験



どことなく日本の山岳風景と重なります



.....ではNo.8で会いましょう!.....

国際協力に興味のある人は
独立行政法人国際協力機構 (JICA)
<https://www.jica.go.jp/> をチェック!

